

湯川  
秀樹

1949/ 物理学 / 未知の素粒子、中間子の存在を予言

朝永  
振一郎

1965/ 物理学 / 素粒子をアツカウクリこみ理論を展開

江崎  
玲於奈

1973/ 物理学 / 半導体トンネルダイオードを発明



Alfred Bernhard Nobel

桐蔭科学展

ノーベル賞

を受賞した日本人科学者

福井  
謙一

1981/ 化学 / フロンティア軌道理論を開拓

利根川  
進

1987/ 生理学・医学 / 多様な抗体を生成する遺伝的原理の解明

白川  
英樹

2000/ 化学 / 導電性ポリマーの発見と開発

野依  
良治

2001/ 化学 / 不斉合成のための触媒分子を開発

小柴  
昌俊

2002/ 物理学 / 宇宙からのニュートリノ検出に成功

田中  
耕一

2002/ 化学 / 生体高分子の構造解析手法を開発

南部  
陽一郎

2008/ 物理学 / 自発的対称性の破れの発見

小林  
誠

2008/ 物理学 / CP 対称性の破れの起源の提唱

益川  
敏英

2008/ 物理学 / CP 対称性の破れの起源の提唱

下村  
脩

2008/ 化学 / 緑色蛍光タンパク質 (GFP) の発見

鈴木  
章

2010/ 化学 / パラジウム触媒によるクロスカップリングに成功

根岸  
英一

2010/ 化学 / パラジウム触媒によるクロスカップリングに成功

山中  
伸弥

2012/ 生理学・医学 / 細胞を初期化する方法を発見

赤崎  
勇

2014/ 物理学 / 白色光源を可能にした青色発光ダイオードの発明

天野  
浩

2014/ 物理学 / 白色光源を可能にした青色発光ダイオードの発明

中村  
修二

2014/ 物理学 / 白色光源を可能にした青色発光ダイオードの発明

2014年 11月15日[土] - 12月13日[土]

鶴川昇記念 桐蔭学園アカデミウム B1F ソフォスホール

■開館時間 10:30-17:30 (入館は17:00まで) ■休館日 日・祝 ■主催 学校法人桐蔭学園

■協力 独立行政法人国立科学博物館、浜松ホトニクス株式会社、株式会社木下製作所

■お問い合わせ先 桐蔭学園アカデミウム 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614 TEL.045-975-2100 <http://toin.ac.jp/ma/>



バスでのご来場をお願い申し上げます。

東急田園都市線 市が尾・青葉台各駅、または小田急線柿生駅から桐蔭学園行きバスで約15分

# 桐蔭科学展

## ノーベル賞を受賞した日本人科学者



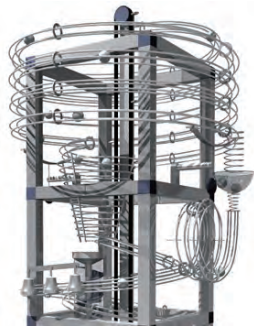
<ノーベル賞コーナー>  
日本人科学者の功績や資料（複製）を展示

<ノーベル賞コーナー>  
ニュートリノの観測に成功した浜松ホトニクス社の20インチ光電子増倍管



<体験展示コーナー>  
スーパーコンピュータの数値解析でも予測できない不思議な動きを示す「カオティックの振り子」（イメージ図）

<体験展示コーナー>  
光の三原色、R（赤）G（緑）B（青）。ライトの色とともにグラフィックはどのように変化して見えるでしょうか



<体験展示コーナー>  
ボールコースター。位置エネルギーが運動エネルギーに変化する様子を観察することができます（イメージ図）

「桐蔭科学展 ノーベル賞を受賞した日本人科学者」開催にあたって

学校法人桐蔭学園理事長 平岩 敬一

ノーベル賞は、ダイナマイトの発明などで莫大な財をなしたスウェーデン人科学者、アルフレッド・ノーベル（1833～1896）の遺言に基づいて制定されました。物理学、化学、生理学・医学、文学、平和の各分野で「人類に最大の貢献をもたらした人々」に贈られる賞です（のちにスウェーデン銀行によって経済学賞が設立）。

ノーベルは遺言状に「賞を与えるに当たっては、候補者の国籍は一切考慮されてはならず、スカンジナビア人であるなしにかかわらず、もっとも相応しい人が受賞しなければならないというのが、私のとくに明示しておきたい願ひである（※1）」と残しました。当時ヨーロッパ情勢の緊張が高まるなか、このように国際性を帯びた賞は非常に珍しく、現在では世界で最も栄誉ある賞として知られています。ノーベル賞は1901年から実施され、毎年10月初旬に各受賞者が発表されます。日本では1949年の湯川秀樹博士を最初に、今年も3名の科学者の受賞が決定しています。

本展ではノーベル賞の科学分野（物理学、化学、生理学・医学）にスポットをあて、計19名の日本人科学者の研究・功績をパネルで展示します。書籍コーナーには受賞者の著作本を集めました。科学者たちの柔軟なもの見方、発想や想像力の豊かさに、はっとさせられることでしょう。目を輝かせながら研究テーマと真摯に向き合う姿からは、学ぶべきものが多々あると思います。

また、会場のおよそ半分のスペースは、みなさんが実際に見たり動かしたりできる体験展示コーナーで構成しました。力学の構造、錯視の不思議、光の三原色の仕組みなど、楽しみながら科学への興味を養ってほしいと思います。

ここで、1965年に物理学賞を受賞した朝永振一郎博士の著作集（※2）から一節を紹介しましょう。

“「好奇心」は、少なくとも科学という、人間精神の重要な営みに対して、ひとつの大きな原動力になっているのではないかという感じがするのです。しかもこの精神的な好奇心は、人間だれでもが生まれながらに持っているきわめて人間的なものなのです。”

本展を通じて科学者たちの偉勲や哲学に触れ、未知なる科学への興味の扉が開かれることを願います。

開催にあたり、ご協力を賜りました独立行政法人国立科学博物館、浜松ホトニクス株式会社に厚く御礼申し上げます。

※1 北尾利夫著『知ってそうで知らないノーベル賞の話（平凡社新書）』より  
※2 『朝永振一郎著作集 別巻Ⅰ 学問をする姿勢 補遺33篇（みすず書房）』より

### 交通のご案内



### <各駅からのバスのご案内>

- 東急田園都市線 青葉台駅よりバス「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車
- 東急田園都市線 市が尾駅よりバス「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園入口」下車
- 小田急線 柿生駅よりバス「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園入口」下車

### <タクシーご利用の場合>

東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 柿生駅からが便利です。行き先は「桐蔭学園鉄（くろがね）神社前」とお伝えください。  
※駐車場はございませんので、お車の来場はご遠慮ください。